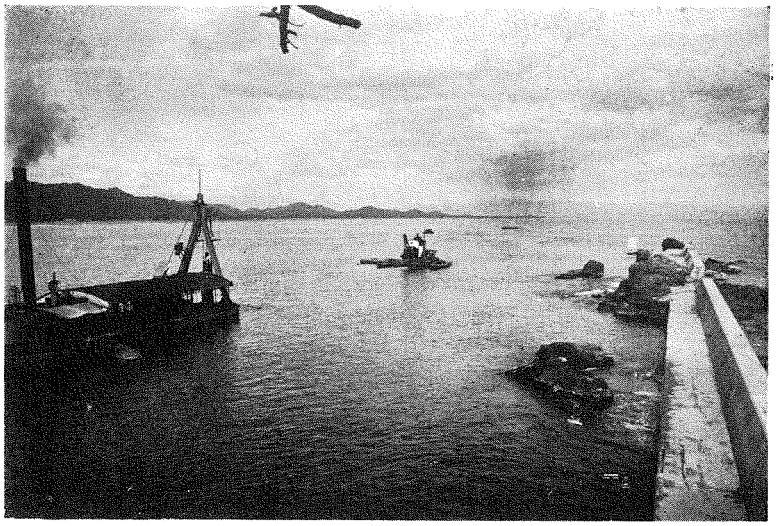

年　頭　の　辭

（浦戸港）

工事は決して行詰るものではない、工事は決して行詰る樣な淺薄なものではない、工事は人類文化の尊い使命である。

行詰つたのは工事技術家自身の精神的氣力ではないか、恐るべきは其氣力の不振である。

一國の中心となるべき先輩技術家も青年技術家も眞に其の精神的氣力を失ふに至つては國家の何事も出來るものではない。

工事技術家は無限の自然界を開拓して行くべく其處に無限の仕事がある筈である。工事の大小を論ぜず其處に自己の職分を充分に認識して精魂一杯の仕事をなすべきである。

工事を愛し、工事に親む者に於ては、工事は決して暗いものではない、寧ろ他の何者よりも前途に赫々たる光明を望み得るであらう。

眞に工事を愛し、眞に工事に親み、而して工事と俱に發展し、以つて人生を完ふし、以て報國の一途と觀ずるならば、年頭先づ手に執つて我工事畫報を讀むべきである。

皇紀二千五百九十六年の新春を迎へて、我等は我國の工事關係の總ての技術家が、精神氣力を一層新にして、而して眞劍に工事に臨まん事を切望して竭まないものである。

昭和十一年元旦

工事畫報社同人